



さいこうじ 西光寺

基本データ 住所：しもとしかず常陸太田市下利員町 957（谷河原西光寺とは異なります）

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15時まで	○	○	○	○	なし

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（下利員町西光寺）】みんなで守った地元のお宝を紹介します！



西光寺の来歴

西光寺は、真言宗豊山派の寺院でしたが、明治時代に無住となってしまい、現在にいたります。大正12年の火災により、現存する仁王門を残し、本堂や薬師堂などの主要な建物は焼失してしまいました。薬師如来坐像と仁王像はその際、周辺の方々によって運び出されましたが、薬師如来坐像は光背の一部が焼損してしまい、仁王像も手首が焼損したとされています。

西光寺の指定文化財

- もくぞうやくしによらいざぞう木造薬師如来坐像 国指定重要文化財（明治44年8月9日指定）

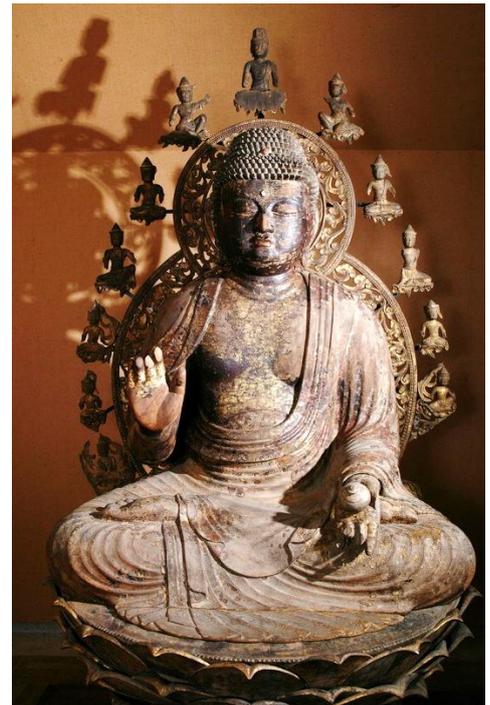
※普段は公開していません

像高は143.7 cm（台座を含むと290.7 cm）で九重の蓮華座上に座し、背後には飛天のつく光背を持っています。平安時代後期の作で、定朝様式の仏像として県内では貴重な存在です。

カヤ材の一木割刳造りであるとされています。光背は2つの円が重なった二重円光で、中央最上部に大日如来を配置し、左に6軀、右に5軀の飛天を配しています。

平成17・18年度の2年間、奈良国立博物館内にある（財）美術院国宝修理所で、表面の剥落止めや、大正12年（1923）の火災で運び出された際に誤って配置された光背の飛天を元に戻すなどの修理を実施しました。

東日本大震災でも、光背に亀裂が入るなどの被害を受けたため、再度、（財）美術院国宝修理所で修復作業を行い、平成26年6月に完了しました。



○ もくぞうにおうぞう 木造仁王像 県指定文化財（昭和 46 年 1 月 28 日指定）

阿形像（右）は像高 236.0 cm、重さ 230 kg、
吽形像（左）は像高 231.2 cm、重さ 246 kg で
す。阿形像はケヤキ材、吽形像はカツラ材の一
木造で室町時代の後半の作とされています。

昭和初期の修理で施された釘や かすがい 鋸 が錆
び、台座が小さいため自立できなかつたので、
平成 17・18 年度の 2 年間、山形県山形市にあ
る東北芸術工科大学文化財保存修復研究セン
ターで、解体修理を行いました。その際、享保
2 年（1717）の銘がある修理札と般若心経の経
巻が見つっています。



じょうちょう じょうちょうよう
定朝と定朝様

定朝は平安時代後期に活躍した仏師で、それまでの中国からの影響を受けた仏像から、日本独自の様式の仏像を確立しました。浅く平行に彫られた衣の文様や瞑想的な表情が特徴で、当時の平安貴族に受け入れられました。多くの仏像を作ったと伝えられていますが、現存するのは京都府の宇治平等院本尊の阿弥陀如来坐像（国宝）だけとされています。定朝の作風は以後の仏像に広く浸透し、定朝様として広まりました。この機会にぜひともご覧ください。

集中曝涼 アンケートにご協力ください
こちらから回答可能です→
〔各公開場所の受付でも配布しています〕

